

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	心理学実験		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期 月曜2,3,4限	教室名	
担 当 教 員	小川正子	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>様々な心理学実験の計画立案、統計に関する基本的な知識を学び、実施できるようになる。また、各種の実験や心理検査から心のありようを理解し、援助者として必要な構えを学ぶ。さらに、基本的なエクセルの使い方やレポートの書き方についても学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>成績評価の方法は、レポートとプレゼンテーション資料とする。成績評価基準は、レポートの成績50点、プレゼンテーション資料50点の計100点、学習状況、出席状況を総合して、試験素点の70%、出席評価点20%、平常評価点10%の100点満点とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>テキストは使用しない。随時、資料を配布する。 参考図書「実験・実習で学ぶ心理学の基礎(金子書房)」「心理学実習基礎編(培風館)」「心理学実験法・レポートの書き方(ナカニシヤ出版)」「心理学検定基本キーワード集(心理学検定局編)」</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>興味のある心理学に関する領域に関する原著論文を探して読むこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>レポートは体験してすぐ作成することが大切。レポートの作成は、先送りすることなく提出期限を守ること。実験は遊びではないので、人間の心理の理解に努めること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	独立変数と従属変数を日常の例えで説明することができる。	PPT 配布資料		心理学検定対策テキストの該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「心理学実験に関する基礎知識」実験とはどのようなものか、独立変数と従属変数、レポートの様式について概説する。			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	鏡映描写の実験条件を説明することができる。	PPT 配布資料 鏡映描写装置		独立変数と従属変数について復習すること。
		各コマにおける授業予定	「鏡映描写」学習の転移、両側性転移について体験的に学ぶため、鏡映描写実験を行う。実験条件を統制することの意味について理解する。			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	鏡映描写実験の手続きを理解すること。	PPT 配布資料 鏡映描写装置		実験鉄続きについて熟読する。
		各コマにおける授業予定	「鏡映描写実験」			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	鏡映描写実験の手続きを理解すること。	PPT 配布資料 鏡映描写装置		実験鉄続きについて熟読する。
		各コマにおける授業予定	「鏡映描写実験」			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	鏡映描写実験の手続きを理解すること。	PPT 配布資料 鏡映描写装置		考察のポイントについて熟読する。
		各コマにおける授業予定	「鏡映描写実験」			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 授業を通じての到達目標	エクセルシートへの入力、グラフ作成ができる。	PPT 配布資料 鏡映描写装置 PC	心理学検定対策テキストの該当箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「鏡映描写実験のまとめ」データをエクセルシートに入力し、グラフを作成し、レポートの書き方を学ぶ。		
第7回	講義 授業を通じての到達目標	精神物理的測定法の違いを説明できる。	PPT 配布資料 触二点閾触覚計 検査記録用紙	心理学検定対策テキストから、精神物理的測定法、体性感覚の項を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「触二点閾」触二点閾を測定し、身体部位の触二点閾の違いを確かめる。実験方法を理解する。		
第8回	講義 授業を通じての到達目標	実験手続きを理解する。	PPT 配布資料 触二点閾触覚計 検査記録用紙	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「触二点閾」		
第9回	講義 授業を通じての到達目標	実験手続きを理解する。	PPT 配布資料 触二点閾触覚計 検査記録用紙	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「触二点閾」		
第10回	講義 授業を通じての到達目標	体性感覚を説明することができる。	PPT 配布資料 触二点閾触覚計 検査記録用紙 PC	考察のポイントを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「触二点閾」実験の結果をまとめ、考察する。		
第11回	講義 授業を通じての到達目標	実験条件を考えることができる。	PPT 配布資料 錯視図形 記録用紙	心理学検定テキスト「錯視」に関連する項目を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「錯視」精神物理的測定法、主観的等価点など心理学の基本的な概念を学ぶ。		
第12回	講義 授業を通じての到達目標	実験手続きを理解する。教示ができる。	PPT 配布資料 錯視図形 記録用紙	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「錯視」錯視図形を用いて錯視量を測定する。		
第13回	講義 授業を通じての到達目標	実験手続きを理解し、教示ができる。	PPT 配布資料 錯視図形 記録用紙	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「錯視」錯視図形を用いて錯視量を測定する。		
第14回	講義 授業を通じての到達目標	実験手続きを理解し、教示ができる。	PPT 配布資料 錯視図形 記録用紙	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「錯視」錯視図形を用いて錯視量を測定する。		
第15回	講義 授業を通じての到達目標	エクセルシートへの入力、グラフ作成ができる。	PPT 配布資料 錯視図形 記録用紙 PC	考察のポイントを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「錯視」データを集計し、エクセルシートに入力、レポートを作成する。		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	心理学実験		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期 月曜2,3,4限	教室名	
担 当 教 員	小川正子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
様々な心理学実験の計画立案、統計に関する基本的な知識を学び、実施できるようになる。また、各種の実験や心理検査から心のありようを理解し、援助者として必要な構えを学ぶ。さらに、基本的なエクセルの使い方やレポートの書き方についても学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
成績評価の方法は、レポートとプレゼンテーション資料とする。成績評価基準は、レポートの成績50点、プレゼンテーション資料50点の計100点、学習状況、出席状況を総合して、試験素点の70%、出席評価点20%、平常評価点10%の100点満点とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキストは使用しない。随時、資料を配布する。 参考図書「実験・実習で学ぶ心理学の基礎(金子書房)」「心理学実習基礎編(培風館)」「心理学実験法・レポートの書き方(ナカニシヤ出版)」「心理学検定基本キーワード集(心理学検定局編)」						
《授業外における学習方法》						
興味のある心理学に関する領域に関する原著論文を探して読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
レポートは体験してすぐ作成することが大切。レポートの作成は、先送りすることなく提出期限を守ること。実験は遊びではないので、人間の心理の理解に努めること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	記憶のプロセス、想起の仕方を説明できる。	PPT 配布資料 無意味つづり 記録用紙PC	心理学検定テキストから、記憶に関する項目について読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「系列位置効果」記憶のメカニズムについて学ぶ。また、実験の統制が結果に及ぼす影響について考える。			
第17回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	実験者としての教示ができ、実験手続きの意味を理解できる。	PPT 配布資料 無意味つづり 記録用紙PC	配布資料から、実験手続きについて熟読する。	
		各コマにおける授業予定	「系列位置効果」実験を行う。			
第18回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	初頭効果と新近効果を説明できる。	PPT 配布資料 無意味つづり 記録用紙PC	実験手続きについて熟読する。	
		各コマにおける授業予定	「系列位置効果」実験を行い、結果を整理する。			
第19回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	エクセル入力と、グラフの作成ができる。	PPT 配布資料 無意味つづり 記録用紙PC	考察のポイントを熟読する。	
		各コマにおける授業予定	「系列位置効果」結果をエクセルシートに入力し、レポートにまとめる。			
第20回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	記憶の内容による分類を説明できる。	PPT 配布資料	心理学検定テキストから、記憶の内容に関する項目を読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「日常記憶」実験的記憶と比較し、日常の記憶の特徴、想起について学ぶ。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	概念の構造と記憶のネットワークモデルを理解する。	PPT 配布資料	心理学検定テキストから、プライミングに関する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「連想プライミング」語彙判断課題から、意味記憶の特徴を考察する。また、記憶に関する実験方法の違いから、記憶の内容や想起の仕方の違いを理解する。		
第22回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	パーソナルスペースについて説明できる。	PPT 配布資料 実験道具 記録用紙	参考図書の中から対人距離に関する箇所を読んでおくこと。また、手続きを熟読すること。
	各コマにおける授業予定	「パーソナルスペース」2種類のパーソナルスペースの実験を行い、行動観察の方法について体験的に学ぶ。		
第23回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	行動観察のメリット・デメリットを説明できる。	PPT 配布資料 実験道具 記録用紙	参考図書の中から行動観察と心理アセスメントに関する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「パーソナルスペース」実験結果を整理し、パーソナルスペースに影響を及ぼす要因について考察する。		
第24回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	対人認知の要因、社会的促進、社会的抑制を説明できる。	PPT 配布資料 実験道具 記録用紙	実験手続きについて熟読する。
	各コマにおける授業予定	「対人認知」他者認知や他者の存在が及ぼす影響について体験的に学ぶ。		
第25回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	知覚的防衛と知覚的促進を説明できる。	PPT 配布資料 実験道具 記録用紙	対人認知と社会的知覚に関するレポートを作成する。
	各コマにおける授業予定	「社会的知覚」ブルーナーの実験を通し、知覚に及ぼす主観的な要因を体験的に学ぶ。		
第26回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	心身相関現象を説明できる。	PPT 配布資料 唾液アミラーゼモニター	参考図書の中からストレスとストレス反応に関する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「ストレスチェック」唾液アミラーゼを測定し、実験条件や実験方法を考える。		
第27回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	ストレス反応について説明できる。	PPT 配布資料 唾液アミラーゼモニター	考察のポイントを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「ストレスチェック」結果をまとめ、レポートを作成する。また、唾液アミラーゼ以外のストレス評価について考察する。		
第28回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	神経心理学的検査の特徴を理解する。	PPT 配布資料 課題	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「神経心理学的検査」線分二等分テスト、利き手テスト、文字流暢性テスト、ストループテストを実施、脳機能の特徴について理解する。		
第29回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	テストと脳機能との関連について理解する。	PPT 配布資料 課題	実験手続きを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「神経心理学的検査」線分二等分テスト、利き手テスト、文字流暢性テスト、ストループテストを実施、脳機能の特徴について理解する。		
第30回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	脳機能の局在性を説明できる。	PPT 配布資料 課題	考察や発展学習のポイントを熟読する。
	各コマにおける授業予定	「神経心理学的検査」結果をまとめ、レポートを作成する。		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	心理学実験		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期 月曜2,3,4限	教室名	
担 当 教 員	小川正子	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>様々な心理学実験の計画立案、統計に関する基本的な知識を学び、実施できるようになる。また、各種の実験や心理検査から心のありようを理解し、援助者として必要な構えを学ぶ。さらに、基本的なエクセルの使い方やレポートの書き方についても学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>成績評価の方法は、レポートとプレゼンテーション資料とする。成績評価基準は、レポートの成績50点、プレゼンテーション資料50点の計100点、学習状況、出席状況を総合して、試験素点の70%、出席評価点20%、平常評価点10%の100点満点とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>テキストは使用しない。随時、資料を配布する。 参考図書「実験・実習で学ぶ心理学の基礎(金子書房)」「心理学実習基礎編(培風館)」「心理学実験法・レポートの書き方(ナカニシヤ出版)」「心理学検定基本キーワード集(心理学検定局編)」</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>興味のある心理学に関する領域に関する原著論文を探して読むこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>レポートは体験してすぐ作成することが大切。レポートの作成は、先送りすることなく提出期限を守ること。実験は遊びではないので、人間の心理の理解に努めること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第31回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	心理検査の種類を説明できる。	PPT 配布資料 検査道具		検査の特徴について調べておく。
		各コマにおける授業予定	「神経心理学的検査」その他の検査を紹介、体験的に学ぶ。			
第32回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	SD法に関する調査用紙を作ることができる。	PPT 配布資料 SD法用紙		実施方法、分析方法を熟読する。
		各コマにおける授業予定	「SD法」SD法を実施し、SD法の手順や分析方法、イメージの特徴のとらえ方について体験的に学ぶ。			
第33回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	SD法を説明できる。	PPT 配布資料 SD法用紙		参考図書の中から、調査、アンケートに関する項目について読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「SD法」結果を整理し、レポートにまとめる。			
第34回	演習形式	授業を通じての到達目標	類型論と特性論を説明できる。	PPT 配布資料 INV FFPQ		参考図書の中から、質問紙に関する箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「質問紙法」類型論と特性論。類型論にもとづく心理検査を実施、検査の集計と結果の解釈を学ぶ。			
第35回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	信頼性と妥当性を説明できる。	PPT 配布資料 INV FFPQ		参考図書の中から、関連する箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「質問紙法」類型論と特性論。特性論に基づく心理検査を実施、検査の集計と結果の解釈の仕方を学ぶ。それらをレポートにまとめる。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	心理検査を実施する際の教示ができる。	PPT 配布資料 P-Fスタディ	参考図書の中から、関連する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「投影法」P-Fスタディを実施し、質問紙法と投影法の違いを体験的に学ぶ。		
第37回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	質問紙法と投影法のメリットとデメリットを説明できる。	PPT 配布資料 ロールシャッハ・テスト(集団用)	参考図書の中から、関連する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「投影法」ロールシャッハ・テストを体験し、スコアリングとその内容、意味について学ぶ。		
第38回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	レポートの書き方の意味について理解する。	PPT 配布資料	検査の結果の意味について調べておくこと。
	各コマにおける授業予定	「課題作成」質問紙法と投影法の心理検査の結果をまとめて報告書を作成する。		
第39回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	PPT資料を作成できる。	PPT 配布資料	レポートの書き方を熟読する。
	各コマにおける授業予定	「課題作成」心理検査の結果をもとに、プレゼンテーション資料を作成する。		
第40回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	知能検査の特徴を理解する。	PPT 配布資料 WAIS-IV	参考図書の中から、該当する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「知能検査」知能検査を体験する。		
第41回	演習形式 授業を通じての到達目標	検査の種類を説明できる。	PPT 配布資料 WAIS-IV	参考図書の中から、該当する箇所を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「知能検査」知能検査を実施し、質問紙や投影法との違いを体験的に学ぶ。		
第42回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	質問紙を作成する際の留意点を理解する。	PPT 配布資料	事前に心理学の中でも関心のある概念について調べておくこと。
	各コマにおける授業予定	「アンケートを作ろう」構成概念、フェイスシートの作り方、回答の種類について概説する。		
第43回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	信頼性と妥当性を説明できる。	PPT 配布資料	質問項目を考えておくこと。
	各コマにおける授業予定	「アンケートを作ろう」各人が、関心のある事柄に関する質問紙とフェイスシートを作成する。		
第44回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	プレゼンテーション資料を作ることができる。	PPT 配布資料 PC	レポートの書き方を再度読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	「アンケートを作ろう」作られた質問紙をもとに、結果をどのようにまとめるのか、参考例を紹介しながらプレゼンテーション資料を作成する。		
第45回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	エクセルの基本的な統計とグラフ作成機能を使うことができる。	PPT 配布資料	各実験の目的を再度読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	予備「振り返りとまとめ」すべての実験を振り返り、その特徴や意味について整理する。		